

カリキュラム開発研究 研究構想図

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
清瀬市立清瀬小学校 主任教諭 川邊 裕作

<p>【社会背景】</p> <ul style="list-style-type: none">・将来の予測が困難な VUCA の時代・少子化、人口減少、高齢化・低い労働生産性、学ばない社会人・国や社会に対する意識の低下 <p>(「第4期教育振興基本計画」文部科学省、令和5年)</p> <p>【今日的な教育課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・「持続可能な社会の創り手の育成」が求められている。・「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が求められている。 <p>(「第4期教育振興基本計画」文部科学省、令和5年)</p>	<p>【東京都教育委員会の教育目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間・社会の一員として、社会に貢献しようとする人間・自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間 <p>【東京都教育ビジョン（第5次）】</p> <p>○基本的な方針</p> <p>4 主体的に社会の形成に参画する態度を育む教育</p> <p>⑨自分の希望する将来への道がみつがっていることを実感できる学びの実現</p>	<p>【教科等の課題】</p> <p>「総合的な学習の時間（中略）は、『地域や社会をよくするために何かしてみたい』（※①）という考えの形成に影響を与えている可能性がある。」</p> <p>(「全国学力・学習状況調査の結果」令和6年度)</p> <p>○※①に関する質問について肯定的な回答をした児童・生徒の割合(令和5年度実施)</p> <ul style="list-style-type: none">・(国) 小学校第6学年 76.9% <p>【所属校の実態】</p> <p>令和4年度から令和7年度、「いのちの学習」というカリキュラムを学校全体で系統的に行い、自他のよさを考え、自己の生き方を探究する児童の育成を目指している。</p> <p>○意識調査結果(令和7年度7月、第6学年)</p> <p>「そう思う」と回答した児童の割合</p> <ul style="list-style-type: none">・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」39%(肯定的な回答 88%)・「夢や目標を実現するために何をしたらよいか考えている」51%(肯定的な回答 81%)
<p>【育てたい児童・生徒像】</p> <p>日本社会に根差したウェルビーイングの向上により、将来にわたり自己の生きがいや人生の意義などを感じられる児童</p>		
<p>【先行研究】</p> <ul style="list-style-type: none">・自己の課題を可視化することは、児童が自己の生き方を探究するよさに気付く有効な手立てである。(東京都教員研究生報告書、令和6年度)・児童が自己評価を生かす場面を設定した単元計画の作成により、学習の質が高まる。(東京都教育研究員報告書、令和5年度)		
<p>【研究主題】</p> <p>積極的に社会参画しようとする態度を養い、自己の生き方を探究する児童の育成 —体験活動での学びの意義や意味を実感する、自己評価シートを活用した総合的な学習の時間の授業改善を通して—</p>		
<p>【主題設定の理由】</p> <p>「第4期教育振興基本計画」(文部科学省、2023)では、現代社会の諸課題に対して、教育において中心となる2つのコンセプトの1つとして「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が示された。この「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」について、「人とつながり・関係性に基づく協働的要素」と「個人が獲得・達成する能力や状態に基づく獲得的要素」を調和ある形で一体的に向上させていくことが重要であると示している。一方で、「国際的な比較調査では我が国の子供たちのウェルビーイングは低いとの傾向が報告されることがある」(「次期教育振興基本計画における方向性」文部科学省、令和4年)という実態がある。また、東京都教育ビジョン(第5次)(東京都教育委員会、令和6年)では、「基本的な方針」の1つとして「主体的に社会の形成に参画する態度を育む教育」を行うことが示されている。しかし、社会参画に関する児童・生徒の意識調査(令和5年度)によると、国の調査(第6学年)と比較して、東京都の調査(第5学年)では、肯定的な回答の割合が5ポイント程低く、中学生になるとさらに5ポイント程低くなっている。以上の施策と児童・生徒の実態から、将来にわたる持続的な幸福を目指した自己の生き方の探究を、積極的な社会参画の態度の育成と一体的に行う必要があると捉え、研究主題を設定した。</p> <p>【副主題設定の理由】</p> <p>小学校学習指導要領(平成29年3月告示)第5章総合的な学習の時間、第1目標では、「自己の生き方を考えていくための資質・能力」の1つとして、「(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参加しようとする態度を養う」と示されている。また、東京都教育施策大綱(東京都、令和7年)には、東京都の目指す教育として「学校内外での学びが、社会や自分の将来とどのようにつながっているかを意識し、学びの意義や意味を実感できる」と示されている。さらに、全国学力・学習状況調査の結果(概要)(国立教育政策研究所、令和6年)には、児童・生徒に対する質問「地域や社会をよくするために何かしたい」の肯定的回答率について、質問「授業で学んだことを実生活等に生かすことができると思う」の肯定的回答率との相関が見られ、さらに総合的な学習の時間の取組状況とも相関が見られることが示されている。この結果及び考察から、学びの意義や意味を実感している児童・生徒ほど社会参画に対して肯定的な傾向があること、社会参画に対して肯定的な児童・生徒の育成には総合的な学習の時間の授業内容が関わっていることが考えられると捉えた。所属校において実践してきた、総合的な学習の時間における体験活動を中心とした探究的な学びを、その意義や意味を実感する自己評価シートを活用することでより充実させ、研究主題に迫ることができると考え、副主題を設定した。</p>		
<p>【研究仮説】</p> <p>体験活動での学びの意義や意味を実感する自己評価シート(Myダッシュ!ボード)を活用し、総合的な学習の時間を充実させることで、積極的に社会に参画しようとする態度を養い、自己の生き方を探究することができるだろう。</p>		
	目的	資料・方法(実施予定月)
基礎	<ul style="list-style-type: none">・文献・先行研究を調べる。・情報を収集する。	<ul style="list-style-type: none">・学習指導要領・東京都教育施策大綱・教育振興基本計画等・各種実践事例についての情報収集(4月～5月)
調査	<ul style="list-style-type: none">・研究対象校の実態把握(清瀬市内各小学校 第6学年児童)	<ul style="list-style-type: none">・研究対象校第6学年児童への意識調査を実施(質問紙調査)(6～7月)
開発	<ul style="list-style-type: none">・意識調査で明らかになった課題を解消する。・学びの意義や意味を実感する、探究的な学習を実践する。	<ul style="list-style-type: none">・自己評価シートの開発及び活用(7月～10月)・第6学年総合的な学習の時間のカリキュラム開発(7月～10月)
検証	<ul style="list-style-type: none">・研究仮説の検証を行う。・成果物の効果検証を行う。・検証結果を踏まえ、改善する。	<ul style="list-style-type: none">・自己評価シートの効果検証(検証授業)(10月～12月)・所属校第6学年児童への意識調査(意識調査・インタビュー)(12月)・所属校教員への児童の行動変容調査(インタビュー)(12月)

研究主題

「積極的に社会参画しようとする態度を養い、自己の生き方を探究する児童の育成
— 体験活動での学びの意義や意味を実感する、自己評価シートを活用した
総合的な学習の時間の授業改善を通して —

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
清瀬市立清瀬小学校 主任教諭 川邊 裕作

第1 研究のねらい

「第4期教育振興基本計画」(文部科学省, 2023)では、現代社会の諸課題に対して、教育において中心となる2つのコンセプトの1つとして「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が示された。この「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」について、「人とのつながり・関係性に基づく協調的要素」と「個人が獲得・達成する能力や状態に基づく獲得的要素」を調和ある形で一体的に向上させていくことが重要であると示している。また、小学校学習指導要領(平成29年3月告示)記載の、総合的な学習の時間の「第1目標」には、「自己の生き方を考えていくための資質・能力」の1つとして、「積極的に社会参画しようとする態度を養う」ことが示されている。

そのため、本研究では、育てたい児童像を「日本社会に根差したウェルビーイングの向上により、将来にわたり自己の生きがいや人生の意義などを感じられる児童」とし、ウェルビーイングの「協調的要素」と「積極的に社会に参画する」こと及び「獲得的要素」と「自己の生き方の考える」ことを、それぞれ対応させながら一体的に高めることを目指した。

また、「令和6年度 全国・学力学習状況調査の結果(概要)」(国立教育政策研究所, 2024)には、「授業で学んだことを実生活等に生かすことができると思う」ことと、「地域や社会をよくするために何かしたい」という積極的な社会参画の態度は、相関が見られると示されている。このことより、地域と連携しながら「学びの意義や意味を実感」できる授業づくりが求められていると考えた。

さらに、東京都教育施策大綱(東京都, 2025)には「子供たちが、学校内外での学びが、社会や自分の将来とどのようにつながっているかを意識し、学びの意義や意味を実感できる」ことを目指すよう示され、「東京都教育ビジョン(第5次)」(東京都教育委員会, 2024)においても、「主体的に社会の形成に参画する態度を育む教育」、「自分の希望する将来への道がつながっていることを実感できる学びの実現」を行うことが挙げられている。一方で、これまで自分自身が実践してきた小学校第6学年総合的な学習の時間では、探究課題として取り組む社会参画の活動と、夢や目標を実現するために何をしたらよいか考える、自己の生き方を探究する時間とのつながりを児童が実感しづらいという課題を感じてきた。

以上の基礎研究及びこれまでの実践から、総合的な学習の時間における探究的な学びの中で、地域や社会に参画する体験活動と自己の生き方のつながりを可視化し、「学びの意義や意味を実感」できるようにする自己評価シートを活用することで研究主題に迫り、育てたい児童像を具現化する一助にしたいと考えた。

第2 研究仮説

体験活動での学びの意義や意味を実感する自己評価シート(Myダッシュ!ボード)を活用し、総合的な学習の時間を充実させることで、積極的に社会に参画しようとする態度を養い、自己の生き方を探究することができるだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

- (1) ウェルビーイングの向上やキャリア教育の充実に向けた教育実践の先行研究を調査した。
- (2) 「小学校学習指導要領」(平成29年3月告示)を中心に、総合的な学習の時間についての研究を行った。
- (3) 「第4期教育振興基本計画」(文部科学省, 令和5年)を中心に、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」についての研究を行った。

2 調査研究

都内公立小学校の第6学年を対象に「積極的な社会参画」、「自己の生き方の探究」、「学ぶ意義や意味」及び「ウェルビーイング」に関わる事前の意識調査を実施し125人から回答を得た。その結果から、以下の3点が明らかになった。

(1) 「積極的な社会参画」に関する調査

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」という質問に「当てはまる」と回答した児童の割合は、「人の役に立つ人間になりたいと思う」に比べて27ポイント低い。このことから、利他性はあるが社会貢献意識にはつながっていない実態があり、地域や社会に参画する体験活動を充実させることが必要であると捉えた(図1)。

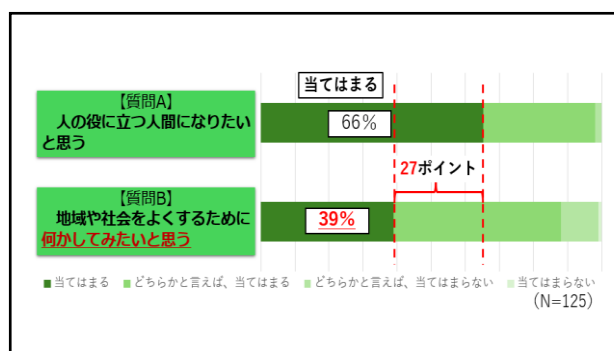


図1 「積極的な社会参画」に関する調査

(2) 「自己の生き方の探究」に関する調査

「夢や目標を実現するために何をしたらよいか考えている」という質問に「当てはまる」と回答した児童の割合は、「将来の夢や目標を持っている」に比べて14ポイント低い。このことから、夢や目標の実現に向けて何をすべきかを具体的に考える、自己の生き方を探究する学習が必要であると捉えた(図2)。

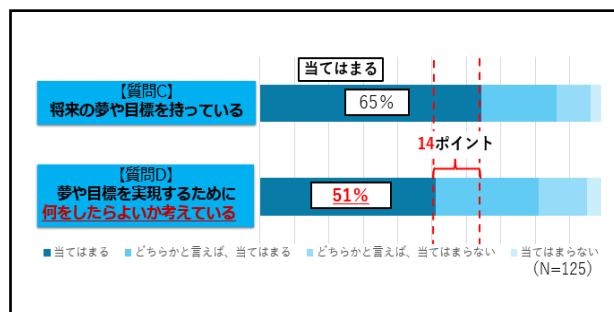


図2 「自己の生き方の探究」に関する調査

(3) 「学ぶ意義や意味の実感」とウェルビーイングとのつながりに関する調査

「自己の生き方の探究」についての意識が低い児童について、ウェルビーイングと「学ぶ意義や意味の実感」との相関がみられた($R^2 = 0.65$)。このことから、ウェルビーイングを向上させる手だてとして、学ぶ意義や意味を実感することが、支援を要する児童にとって特に有効であると捉えた。なお、ウェルビーイングの値は、社会参画、自己の生き方の探究、幸福感に関わる5つの質問項目の回答結果から算出した(図3)。

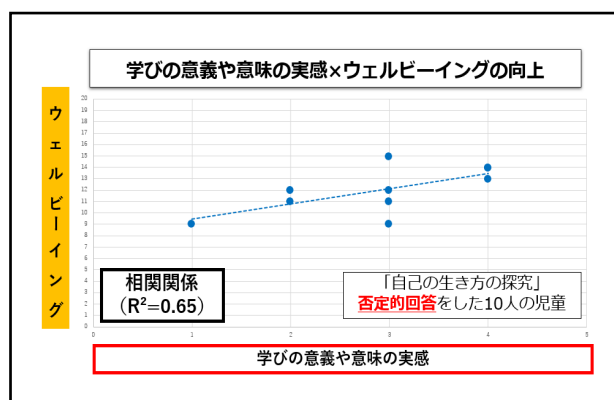


図3 「学ぶ意義や意味の実感」とウェルビーイングとのつながりに関する調査

なお、質問項目は全国学力・学習状況調査を基本とし、質問4のみ、本研究において「自己の生き方の探究」に関する質問項目として追加した（図4）。

質問1	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	積極的な社会参画
質問2	地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか	積極的な社会参画
質問3	将来の夢や目標をもっていますか	生き方の探究
質問4	夢や目標を実現するために何をしたらよいか考えていますか	生き方の探究
質問5	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	幸福感

図4 ウェルビーイングに関する調査の質問項目

3 開発研究

研究仮説にある「体験活動での学びの意義や意味を実感する自己評価シート（以下、「Myダッシュ！ボード」という。）を活用し、総合的な学習の時間を充実させる」手だてとして2つの開発物を作成し、積極的に社会参画しようとする態度を養い、自己の生き方を探究できるようにした。

(1) 自己の変容を可視化し学びの意義や意味を実感するための「Myダッシュ！ボード」

児童は、毎時間の授業の最後に、「データ入力」シートに4段階の「自己評価」を入力する。「活動内容」は、学習計画に沿って記入し、適宜修正が可能である。児童は見通しをもって学習を進められる（図5）。

The screenshot shows a spreadsheet with columns for 'Activity Content' (活動内容) and 'Self-Evaluation' (自己評価). The self-evaluation part is divided into two main sections: 'Welfare (Social Participation)' (ウェルビーイングの1要素(社会参画)) and 'Welfare (Exploration of Life)' (ウェルビーイングの1要素(生き方の探究)). Each section has sub-columns for different indicators like 'Trust', 'Autonomy', 'Participation', 'Social Contribution', 'School/Community', 'Support', 'Self-Confidence', 'Self-Realization', 'Physical Health', 'Sense of Well-being', and 'Sense of Security'. The cells contain numerical ratings from 1 to 4.

図5 「データ入力」シート

児童がシートに入力すると「Myダッシュ！ボード」には、ウェルビーイングの2つの要素（社会参画、自己の生き方の探究）について、その授業の学びを可視化する棒グラフと、単元を通した高まりを可視化する折線グラフが表示される仕様である。児童は、それらグラフから自己の変容を実感するとともに、本時の活動についての振り返りと次回の活動・目的を考え、「Myダッシュ！ボード」シートに記述する（図6）。



図6 「Myダッシュ！ボード」シート

なお、児童が行う「自己評価」の視点は、「第4期教育振興基本計画」に示されている、「日本社会に根差したウェルビーイング」をより具体的に分類した、11個のウェルビーイングの要素（以下「ウェルビーイングの11要素」という。）（図7）。

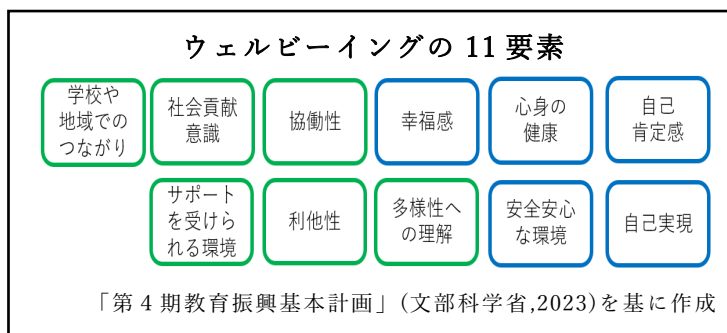


図7 「ウェルビーイングの11要素」

(2) 地域人材と継続して関わりながら探究のサイクルを発展的に繰り返すカリキュラム

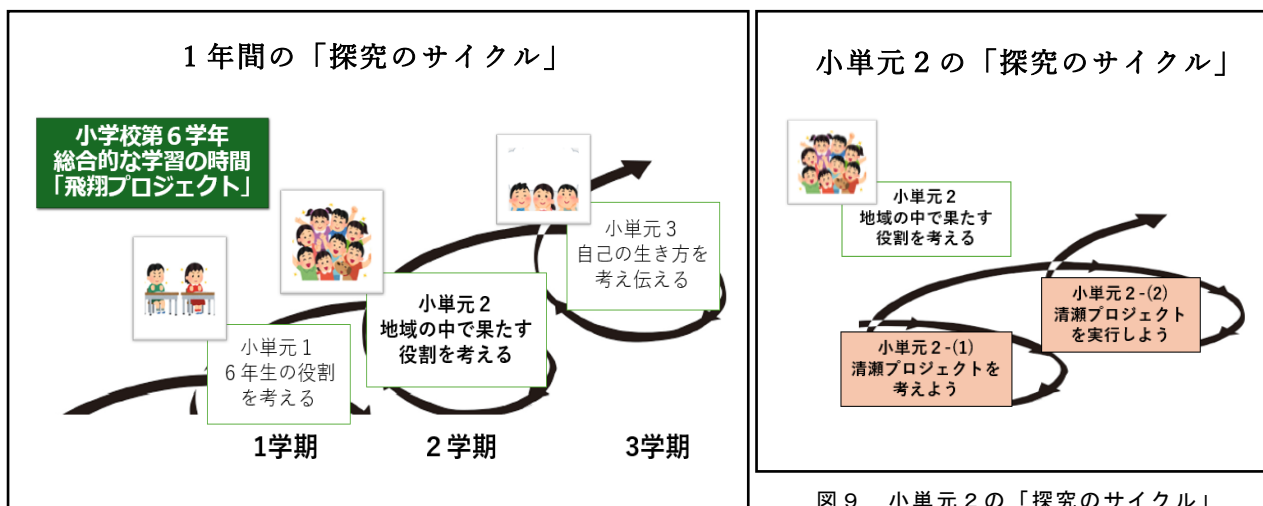


図8 1年間で3つの「探究のサイクル」で構成

図9 小単元2の「探究のサイクル」

年間授業計画において、1年間で3つの小単元で構成した（図8）。さらに検証授業を行った小単元2は、小単元2-(1)と小単元2-(2)に分けた（図9）。各単元では、課題の設定、情報の収集、整理分析、まとめ・表現を基本とした「探究のサイクル」を、既習事項を生かして発展的に繰り返すカリキュラムとした。

小単元2では、児童の興味・関心に基づいて、6つの社会参画プロジェクトを作った。「街をきれいに」、「図書館開放」、「自治会参画」、「自然を守る」、「ひばりプロジェクト」及び「街のよさPR」というそれぞれのプロジェクトに分かれて計画を立て、実行していくことを通して、地域の中で果たす自己の役割について考えた。その際、各プロジェクトに学年の担任が入り、適宜、指導・助言をした。

小単元2-(1)では、「課題の設定」で、地域の方の社会参画や生き方について聞き、「自分の役割を果たすこと」について、「情報の収集」では、地域の方の活動や思いを知り、「自分がやりたいことやできること」について、「まとめ・表現」では、地域の方に適宜助言をいただきながら計画書を作る、という構成とした。

小単元2-(2)では、各社会参画プロジェクトの計画書に沿って、市役所や地域の方から情報を集め、社会参画の活動や報告等を行った。単元を通して、地域人材と関わりながら学習を進め、単元のまとめでは、蓄積した「Myダッシュ！ボード」を振り返り、単元を通した自己の変容について考えた。

4 検証授業

(1) 検証授業の概要

単元名：「飛翔プロジェクト」

対象：都内公立小学校 第6学年 142人

①小単元1：6年生の役割を考える

課題	探究的な学習の過程
・日光の魅力を発信しよう	【課】日光の魅力についての課題を決める。 【情】現地取材やインターネットでの調べ学習を行う。 【整】伝えたい情報を整理する。 【ま】パンフレット形式にまとめる。
・6年生の役割とは ・自分の長所を生かそう ・自分たちができること @清瀬小	【課】6年生としての役割を知り、課題を決める。 【情】学校において役割を果たす活動を行い、うまくいったことや課題を共有する。 【整】課題を解決するための方法を整理する。 【ま】自分の長所を生かした活動について振り返り、夏休みや2学期の活動を考える。

②小単元2：地域の中で果たす役割を考える ※検証授業として実施

小単元2-(1) ・「清瀬プロジェクト」を考えよう	第1時～第2時 【課】地域の中で果たす自分の役割について考える。 第3時～第5時 【情】地域人材の話聞き、自分ができると考えるための情報を集める。 第6時～第8時 【整】情報を整理して、地域で行うプロジェクトを決める。 【ま】プロジェクトの計画書を作成する。
検証方法	1 「Myダッシュ！ボード」から、活動と児童の変容のつながりを検証する。 2 児童が作成したプロジェクトの計画書から目的や見通しをもっているか検証する。
小単元2-(2) ・「清瀬プロジェクト」を実行しよう	第9時～第10時 【情】プロジェクトを実行するための情報を集める。 第11時～第14時 【整】集めた情報を整理し、プロジェクトの準備を行う。 第15時～第18時 【ま】プロジェクトを実行し、「Myダッシュ！ボード」を振り返ることで、自己の変容についてまとめる。
検証方法	1 「Myダッシュ！ボード」から、活動と児童の変容のつながりを検証する。 2 小単元の振り返りを「ウェルビーイングの11要素」の視点でシートに記入し、児童が活動を通してどのような自己の変容に気づき、これからどうなりたいと感じているか検証する。 3 検証授業実施前後の生徒を対象とした質問紙調査の比較を行う。

③小単元3：自己の生き方を考え伝える

・学ぶことの意義を考えよう	【課】2学期までの活動を振り返り、今後の自己の目標と、実現するために必要な課題を考える。 【情】身の回りの人へのインタビューや自己評価シートを基に、自分の夢や目標を達成するために何をしたらよいか調べる。 【整】調べたことをチャートや表に整理する。 【ま】夢や目標を実現するために、今の自分に必要なことをまとめる。
・将来の夢や目標を伝えよう	【課】小学校生活で学んだこと、これからの夢や目標、その実現に向けて必要なことを伝える計画を立てる。 【情】キャリア・パスポートや学習の成果物から、伝える情報を集める。 【整】必要な情報を整理する。 【ま】保護者に向けて、「なりたい自分」についての発表会を行う。

【課】課題の設定 【情】情報の収集 【整】整理・分析 【ま】まとめ・表現

(2) 検証授業の分析

ア 「積極的な社会参画」について

「積極的な社会参画」に関わる要素である、「社会貢献意識」「利他性」共に、検証授業前後で「当てはまる」と回答した児童の割合が上昇した。特に「社会貢献意識」の上昇が大きく、地域での体験活動を通して、児童の「積極的な社会参画」への意識が高まったと考えた(図10)。

さらに、積極的な社会参画に肯定的な回答をした理由について、「地域をよくすることが、とても大変なことがわかった。だから、今私ができる小さな事から始めたいと思った。」「総合をやったことによって友達との仲がより深まり地域を良くしようとする心がでてきたため、これからも地域や学校をよくしていきたい。」等の記述があり、質的調査からも児童の意識の高まりを読み取ることができた。

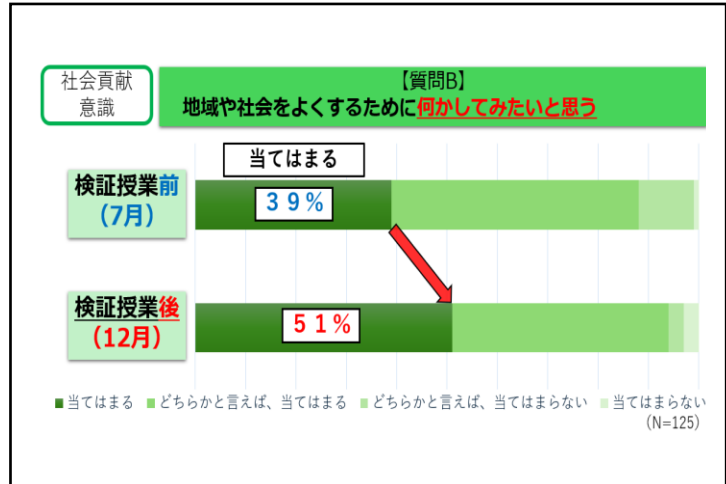


図10 「社会貢献意識」に関する調査

イ 「自己の生き方の探究」について

「自己の生き方の探究」に関わる質問に「当てはまる」と回答した児童の割合は、検証授業前後共に51%であり、変化がなかった(図11)。

一方で、肯定的な回答をした児童の記述には、「とても楽しかった。違うプロジェクトの人と交流をすることで、周りの人も頑張っているから自分も頑張ろうって思えたし、思ってもらうこともできたと思う。」「もっと『自分から〜しよう』と思えるようになりたい。」等があることから、夢や目標を実現するために具体的に考えている児童の様子を読み取ることができた。

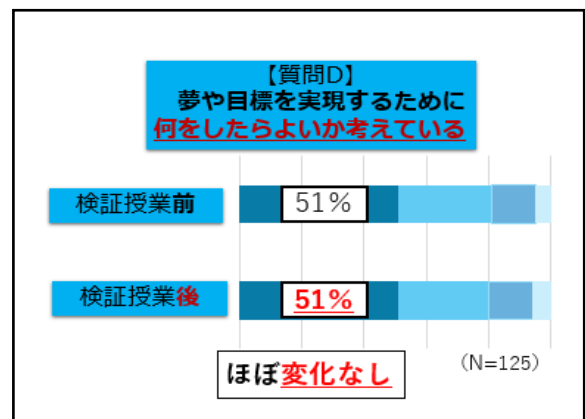


図11 「自己の生き方の探究」に関する調査

ウ 「学びの意義や意味の実感」とウェルビーイングとの相関について

事前の意識調査で「自己の生き方の探究」に対して否定的な回答をした児童10人について、検証授業後の変容を調べた。相関係数は0.77(検証授業前は0.66)となり、相関の高まりが見られた。またデータ全体の傾向を示す近似曲線を比較すると、両者が一体的に高まっていることも示唆された(図12)。

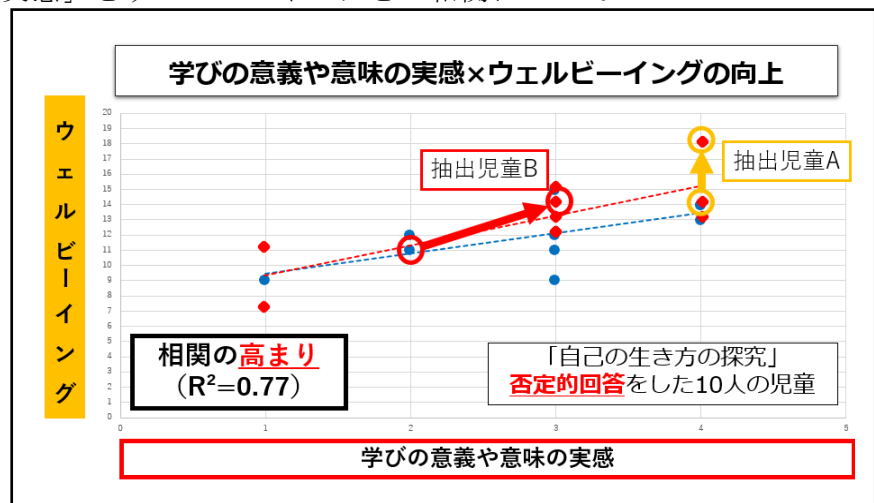


図12 「学びの意義や意味の実感」とウェルビーイングの相関

なお、相関関係が示唆された2項目についての意識調査は、全国学力・学習状況調査の質問を基本として使用した。「学びの意義や意味の実感」については、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができますか」という質問を使用し、ウェルビーイングについては先述の通りである(図4)。

さらに、事前の意識調査で「自己の生き方の探究」に対して否定的な回答をし、事後調査では肯定的な回答に変容した児童について検証した。

	児童A	児童B
ウェルビーイングの向上	14ポイント→18ポイント	11ポイント→14ポイント
学びの意義や意味の実感	肯定的	否定的→肯定的
自己の生き方の探究	否定的→肯定的	否定的→肯定的
プロジェクトを通してよかったことは何ですか?	人の役に立ててよかった。 人を喜ばせることができた。	街をきれいにして人を喜ばせることができてよかった。

図13 抽出児童の変容

児童A、B共に「人を喜ばせた」という記述から、ウェルビーイングの11要素の1つである「利他性」を実感していることが推察できた。社会参画の体験活動を通して、利他性を高めながら、その意義や意味を実感することがウェルビーイングの向上につながると示唆された(図13)。

第4 研究の成果

第一に、地域人材を活用した体験活動の充実により、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」という質問に「そう思う」と回答した児童の割合は12ポイント高まり、肯定的な回答は、全体の94%を占めた。この結果は、全国学力・学習状況調査の結果と比較しても13ポイント程高く、児童の社会参画への意識の上昇に一定の成果があったと考えられる(図14)。

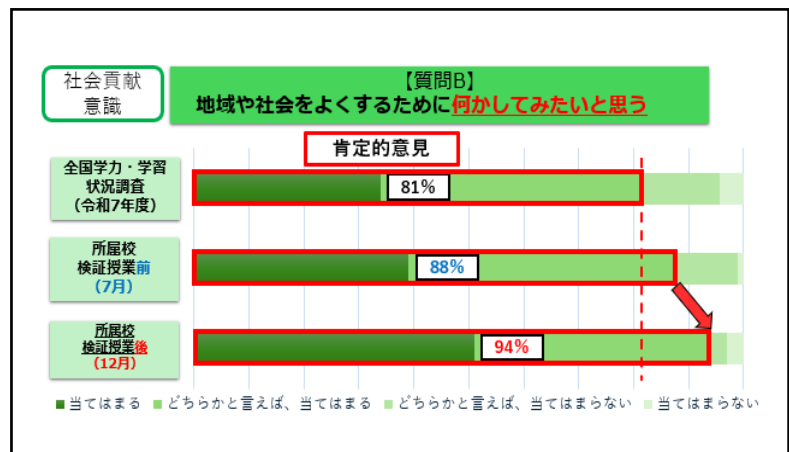


図14 「社会貢献意識」に関する調査

第二に、「Myダッシュ！ボード」の有効性についての質問に肯定的な回答をした児童は87%であった。その回答理由についての記述からも、学びの意義や意味を実感し自己の生き方を探究する手だてとして、有用であることが示唆された。以下、検証授業で児童が作成した3点の「Myダッシュ！ボード」活用事例を提示する(図15)。

- (事例1)自己評価に基づく棒グラフ及び「今日の振り返り」の記述から、積極的に社会参画していこうとする意識の高まりが考えられる。
- (事例2)棒グラフ及び「次回の活動・目的」の記述から、自分のよさを生かして自己実現を図ろうとしていることが考えられる。
- (事例3)ウェルビーイングの折線グラフ及び「今日の振り返り」「次回の活動・目的」の記述から、単元を通じた自己の変容を理解し、学びの意義や意味を実感して、次の活動につなげていこうとしていることが考えられる。



図 15 「My Dash! ボード」活用事例

第三に、「自己の生き方の探究」についての意識調査で否定的な回答をした児童 10 人の検証授業前後の変容を表すグラフから、「学びの意義や意味の実感」とウェルビーイングの相関関係が見られた(図 12)。特に、支援が必要な児童にとって、「学びの意義や意味を実感」することがウェルビーイングの向上につながるということが示唆された。

第 5 今後の課題

「My Dash! ボード」の有効性に否定的な回答をした児童は 13%であった。「否定的」な回答をした児童が記述した主な理由は、「ダッシュボードの活用方法が難しかったこと」「自己の成長を感じる事が難しかったこと」であった。開発物の操作性を高めるとともに、活用マニュアルを作成し、活用方法を明確にすることで、より多くの児童に伝わるよう、開発物「My Dash! ボード」の汎用性を高める。

また、今回の検証授業では、「社会参画」の体験活動が中心となる小単元 2 を行った。「自己の生き方」を考え伝える小単元 3 についても検証を行い、どの児童も自分の夢や目標に向かって何をしていくか具体的に考える「自己の生き方の探究」につながるカリキュラムの更なる充実を図っていく。